村城裕明さん『通訳位置』（７月３日配信）

今日のテーマは、中学校の入学式の時の話です。

その中学校は、私が初めてのろう者でした。
中学校の方から情報保障をどのようにするか、入学式の情報保障はどうするかと聞かれました。私は手話通訳をお願いしたいと伝えました。

当日、普通は前もって通訳者と打合せみたいなことをやりますが、その時は打合せがありませんでした。私のイメージでは、舞台上で、校長先生が話している隣に手話通訳がいると思っていました。式の冒頭から終わりまでそんな感じだと思っていました。
入学式で入場し、自分の席に座ったら、目の前に手話通訳者が２人いたんです。
ふつう、新入生は、横一列でクラスごとにきれいに並んでいるものだと思いますが、私の席の目の前には手話通訳者が２人いますから、前の列はその２人をよけるようにボコっと列が乱れています。私としては目立ってしまってすごく恥ずかしかったです。舞台上にいてくれればよかったのですが、私の目の前にいるので恥ずかしくて、抵抗がありました。なので、話がまったく頭に入ってきません。恥ずかしかったことは印象に残っていますが、入学式で何を話されていたかは記憶に残ってないです。
そのことがきっかけで手話通訳を頼むことに躊躇してしまい、中学校の時は手話通訳を頼むことはやめて、要約筆記をお願いしました。
卒業式の時はというと、要約筆記ではなくて、パソコンとつないだ専用の端末を手元に持ち、パソコンに入力した文字が端末に表示されるという方法で情報保障を利用しました。